



2025年1月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年9月5日

上場会社名 積水ハウス株式会社 上場取引所 東・名
コード番号 1928 URL <https://www.sekisuihouse.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 兼 CEO (氏名) 仲井 嘉浩
問合せ先責任者 (役職名) 業務役員IR部長 (氏名) 川畑 弘幸 (TEL) 06-6440-3111
半期報告書提出予定日 2024年9月13日 配当支払開始予定日 2024年9月30日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年1月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年2月1日～2024年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年1月期中間期	1,859,127	27.1	157,141	25.8	147,176	17.5	122,983	33.0
2024年1月期中間期	1,462,443	2.7	124,918	△14.7	125,239	△15.2	92,494	△11.1

(注) 包括利益 2025年1月期中間期 239,861百万円(51.0%) 2024年1月期中間期 158,878百万円(△17.8%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年1月期中間期	189.79	189.74
2024年1月期中間期	140.31	140.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年1月期中間期	4,720,306	1,997,595	41.3
2024年1月期	3,352,798	1,794,052	52.3

(参考) 自己資本 2025年1月期中間期 1,951,420百万円 2024年1月期 1,754,585百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	—	59.00	—	64.00	123.00
2025年1月期	—	64.00	—	—	—
2025年1月期(予想)	—	—	—	65.00	129.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年1月期の連結業績予想(2024年2月1日～2025年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000,000	28.7	320,000	18.1	288,000	7.4	209,000	3.3	322.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 34社 (社名) M. D. C. Holdings, Inc.、除外 一社 (社名)
他
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年1月期中間期	662,996,866株	2024年1月期	662,862,666株
② 期末自己株式数	2025年1月期中間期	14,909,375株	2024年1月期	14,911,673株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年1月期中間期	647,991,811株	2024年1月期中間期	659,228,882株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、〔添付資料〕P. 7「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は2024年9月5日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料につきましては、開催当日にホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 中間連結貸借対照表	8
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	10
中間連結損益計算書	10
中間連結包括利益計算書	11
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12

参考資料 セグメント別内訳

<連結>

当中間連結会計期間より、当社グループ内の経営管理区分の一部見直しに伴い、従来「その他」に計上していた連結子会社の一部のセグメントの区分を、「都市再開発事業」セグメントの区分に変更したため、前年中間期については組替後の数値を表示しています。

(1) 売上高

(単位：百万円)

		前年中間期	当中間期	前年同期比(%)
請負型	戸建住宅事業	231,454	230,632	△0.4
	賃貸・事業用建物事業	263,758	262,394	△0.5
	建築・土木事業	123,628	154,931	25.3
	小計	618,841	647,957	4.7
ストック型	賃貸住宅管理事業	321,142	341,688	6.4
	リフォーム事業	88,293	94,098	6.6
	小計	409,435	435,786	6.4
開発型	仲介・不動産事業	130,228	175,189	34.5
	マンション事業	49,972	54,294	8.6
	都市再開発事業	69,301	73,124	5.5
	開発事業計	249,503	302,608	21.3
国際事業		201,705	484,670	140.3
その他		5,357	6,911	29.0
消去又は全社		△22,400	△18,806	—
連結		1,462,443	1,859,127	27.1

(2) 営業利益及び営業利益率

(単位：百万円)

		前年中間期	当中間期	前年同期比(%)
請負型	戸建住宅事業	18,860 (8.1%)	20,794 (9.0%)	10.3
	賃貸・事業用建物事業	39,541 (15.0%)	37,826 (14.4%)	△4.3
	建築・土木事業	6,706 (5.4%)	7,805 (5.0%)	16.4
	小計	65,107 (10.5%)	66,426 (10.3%)	2.0
ストック型	賃貸住宅管理事業	26,209 (8.2%)	28,291 (8.3%)	7.9
	リフォーム事業	12,112 (13.7%)	13,745 (14.6%)	13.5
	小計	38,322 (9.4%)	42,037 (9.6%)	9.7
開発型	仲介・不動産事業	12,499 (9.6%)	15,528 (8.9%)	24.2
	マンション事業	8,363 (16.7%)	8,095 (14.9%)	△3.2
	都市再開発事業	13,452 (19.4%)	16,154 (22.1%)	20.1
	開発事業計	34,315 (13.8%)	39,778 (13.1%)	15.9
国際事業		12,476 (6.2%)	30,239 (6.2%)	142.4
その他		764 (14.3%)	1,310 (19.0%)	71.4
消去又は全社		△26,067	△22,651	—
連結		124,918 (8.5%)	157,141 (8.5%)	25.8

()内は営業利益率を表しています。

(3) 受注高

(単位：百万円)

		前年中間期	当中間期	前年同期比(%)
請負型	戸建住宅事業	229,048	239,016	4.4
	賃貸・事業用建物事業	272,567	290,821	6.7
	建築・土木事業	144,103	198,651	37.9
	小計	645,719	728,490	12.8
ストック型	賃貸住宅管理事業	321,142	341,688	6.4
	リフォーム事業	88,990	96,582	8.5
	小計	410,132	438,270	6.9
開発型	仲介・不動産事業	155,287	183,492	18.2
	マンション事業	51,782	71,115	37.3
	都市再開発事業	80,602	98,124	21.7
	開発事業 計	287,671	352,733	22.6
国際事業		266,154	576,924	116.8
その他		5,407	7,246	34.0
消去又は全社		△21,148	△18,932	—
連 結		1,593,937	2,084,732	30.8

(4) 受注残高

(単位：百万円)

		前連結会計年度末	当中間期末	前期末比(%)
請負型	戸建住宅事業	229,996	238,381	3.6
	賃貸・事業用建物事業	516,450	544,878	5.5
	建築・土木事業	401,297	445,016	10.9
	小計	1,147,744	1,228,276	7.0
ストック型	賃貸住宅管理事業	—	—	—
	リフォーム事業	34,605	37,090	7.2
	小計	34,605	37,090	7.2
開発型	仲介・不動産事業	60,819	69,122	13.7
	マンション事業	88,989	105,811	18.9
	都市再開発事業	2,550	27,550	980.4
	開発事業 計	152,358	202,484	32.9
国際事業		236,143	527,897	123.5
その他		579	1,432	147.0
消去又は全社		△19,408	△19,535	—
連 結		1,552,023	1,977,645	27.4

※当中間連結会計期間に連結子会社化したM.D.C. Holdings, Inc. 及びその子会社について、同社の数値を各指標の「国際事業」に含めて表示しています。

※当中間連結会計期間に連結子会社化した鳳コンサルタント株式会社について、同社の数値を各指標の「その他」に含めて表示しています。

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における世界経済は、各国の金融政策を背景とした物価情勢や国際金融資本市場の動向、地政学リスクが与える影響に注視が必要な状況が継続しているものの、米国において個人消費や設備投資の増加等、内需を中心とした景気拡大が継続するなど、総じて堅調に推移しました。また、わが国の経済は、円安・物価高等が個人消費に影響を与えたものの、企業の業況や雇用・所得環境の改善もあり緩やかに回復しました。

住宅市場は、国内の新設住宅着工戸数が建設コスト増の影響もあり弱含みの状況が続いています。一方、米国では、住宅ローン金利が高水準で推移する中、住宅着工の調整局面や中古住宅の在庫減少が継続していますが、人口増に対する慢性的な住宅供給不足を背景に住宅に対する潜在需要は強く、持ち直しの動きもみられています。

このような事業環境の中、当社グループは、2050年を見据えたグローバルビジョン“「わが家」を世界一幸せな場所にする”の実現に向け、「国内の“安定成長”と海外の“積極的成長”」を基本方針とする第6次中期経営計画(2023年度～2025年度)に基づき、ハード・ソフト・サービスを融合した様々な高付加価値提案等を積極的に推進しました。米国においては、過去50年以上にわたり良質な住宅を供給してきたM.D.C. Holdings, Inc. (以下「MDC社」)を2024年4月に当社の完全子会社とし、米国における戸建住宅事業の展開エリアをこれまでの8州から16州に拡大しました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高は1兆8,591億2千7百万円(前年同期比27.1%増)、営業利益は1,571億4千1百万円(前年同期比25.8%増)、経常利益は1,471億7千6百万円(前年同期比17.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,229億8千3百万円(前年同期比33.0%増)となりました。

事業モデル別の業績等は次のとおりです。

なお、当中間連結会計期間より、従来「その他」に計上していた連結子会社の一部のセグメントの区分を、「都市再開発事業」セグメントの区分に変更しており、当中間連結会計期間における比較・分析は、変更後の事業セグメントの区分に基づいています。

<請負型ビジネス>

(戸建住宅事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は2,306億3千2百万円(前年同期比0.4%減)、営業利益は207億9千4百万円(前年同期比10.3%増)となりました。

昨年度から全国展開を開始した新デザイン提案システム「life knit design」によるお客様の感性に寄り添う住まいづくりに加え、各分野の専門家で組織するDESIGN OFFICEチームによる戸建住宅のブランディング推進等により、2nd・3rdレンジの中高級商品の拡販に注力しました。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)「グリーンファースト ゼロ」をはじめ、大空間リビング「ファミリー スイート」、次世代室内環境システム「スマートイクス」や間取り連動スマートホームサービス「PLATFORM HOUSE touch」等の高付加価値提案が好評で、受注は堅調に推移しました。

また、1stレンジ商品の強化と国内の良質な住宅ストック形成に貢献するため、昨年度から開始した共同建築事業「SI^{*}事業」については、各地域における優良パートナー企業とのネットワーク構築が着実に進捗しています。

各パートナー企業が建築する木造住宅の基礎と構造躯体の施工を積水ハウス建設グループ各社が請け負うことで、創業以来培ってきた積水ハウスの安全・安心の耐震技術を実感いただけるお客様層が着実に広がっています。

※SI(エス・アイ)：S=スケルトン(建物の構造躯体)とI=インフィル(外装・内装)のこと

(賃貸・事業用建物事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は2,623億9千4百万円(前年同期比0.5%減)、営業利益は378億2千6百万円(前年同期比4.3%減)となりました。

当社独自のエリアマーケティングに基づき長期間にわたり入居需要の見込まれる都市部(S・Aエリア)を中心とした事業展開により、当社オリジナル構法を用いた3・4階建て賃貸住宅の拡販、ネット・ゼロ・エネルギーの賃貸住宅「シャームゾンZEH」の普及に注力したことに加え、高い入居率と賃料水準を実現するプライスリーダー戦略が奏功し、賃貸住宅の受注は好調に推移しました。特に、太陽光パネルを住戸ごとに接続する「シャームゾンZEH」においては、入居者がメリットを実感できる光熱費の節約やエシカル志向への対応を考慮した入居者売電方式が好評で、賃貸住宅受注に占めるZEH住戸割合が78%となりました。

また、収益不動産拡大のための土地仕入及びESGソリューション提案の強化により、CRE(法人)・PRE(公共団体)事業における受注も好調に推移しました。

戸建住宅事業で培ったノウハウをオフィス空間等に活用するネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)「グリーンファースト オフィス」をはじめとした非住宅分野の提案強化を推進しています。

(建築・土木事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は1,549億3千1百万円(前年同期比25.3%増)、営業利益は78億5百万円(前年同期比16.4%増)となりました。

建築・土木事業ともに、工事原価が上昇傾向にあるものの、昨年度から続く旺盛な建設需要を背景に手持工事が順調に増加したことや、昨年度から当中間連結会計期間にかけて受注した大型工事の良好な進捗が増収に寄与しました。また、競争案件における提案力強化をはじめとした戦略的な取り組みにより受注は好調に推移しました。

<ストック型ビジネス>

(賃貸住宅管理事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は3,416億8千8百万円(前年同期比6.4%増)、営業利益は282億9千1百万円(前年同期比7.9%増)となりました。

S・Aエリアを中心とした好立地に供給する高品質・高性能な賃貸住宅「シャームゾン」の継続的な受注と、オーナーとのコミュニケーション強化により管理受託戸数が堅調に増加しました。既存管理物件については、リテナント時の賃料上昇、空室期間の短縮化を企図した戦略的なリーシング活動等を実施しています。入居者ファーストを目指し、アプリを用いた入居手続き・入居後の問い合わせ対応のオンライン化、ブロックチェーンを用いた入退去手続きのワンストップ対応等、DX推進による入居者ニーズに合わせたサービスの拡充により高水準の入居率と賃料を維持し、増収に寄与しました。

(リフォーム事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は940億9千8百万円(前年同期比6.6%増)、営業利益は137億4千5百万円(前年同期比13.5%増)となりました。

住宅ストックの資産価値向上と長寿命化を図るべく、戸建住宅では、家族構成やライフスタイルの変化に合わせた生活提案等の提案型リフォーム、断熱改修や最新の省エネ・創エネ・蓄エネ設備等を導入する環境型リフォームに注力しました。特に環境型リフォームにおいては、住生活空間に範囲を絞った「いどころ暖熱」や開口部断熱改修を中心に1999年に制定された次世代省エネ基準仕様の物件の断熱性能を更にレベルアップさせる提案を強化しました。また、賃貸住宅では、オーナーとのコミュニケーションを強化し、マーケット分析に基づく入居者ニーズをとらえたリノベーション提案に注力しています。これらの取り組みにより、受注は底堅く推移しました。

<開発型ビジネス>

(仲介・不動産事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は1,751億8千9百万円(前年同期比34.5%増)、営業利益は155億2千8百万円(前年同期比24.2%増)となり、とりわけ積水ハウス不動産各社における住宅用地を中心とした販売用不動産の売却が順調に進捗し増収に寄与しました。

また、良質な販売用不動産の仕入れを企図した事業法人や金融機関などの引合ルートの継続的な拡大や深化に取り組むとともに、販売用不動産の出口戦略のバリエーション強化に注力した結果、取扱い物件の高額化、住宅用地の取扱い数の増加につながり、受注は好調に推移しました。

仲介事業についても、当社グループの全国ネットワークと多彩な販売ルートの活用により堅調に推移しています。

(マンション事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は542億9千4百万円(前年同期比8.6%増)、営業利益は80億9千5百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

「グランドメゾン代官山 THE PARK」(東京都渋谷区)の引渡し完了のほか、「グランドメゾン上野毛」(東京都世田谷区)等の引渡し順調に進捗し増収に寄与しました。

東京・名古屋・大阪・福岡の中心地を戦略エリアとして集中的に展開する高付加価値の分譲マンション「グランドメゾン」については、ブランド価値の更なる向上を図るべく開発用地を厳選したうえで、生涯住宅思想に基づく設計・デザインを追求するとともに、家庭部門の脱炭素化への貢献を目指して全住戸ZEH仕様とするなど、環境配慮に関する先進技術の採用を積極的に進めています。これらの取り組みが評価され、「グランドメゾン武蔵小杉の杜」(川崎市中原区)、「グランドメゾン上町一丁目レジデンス」(大阪府中央区)等の販売が好調に推移しました。

(都市再開発事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は731億2千4百万円(前年同期比5.5%増)、営業利益は161億5千4百万円(前年同期比20.1%増)となりました。

積水ハウス・リート投資法人に「プライムメゾン湯島」(東京都文京区)など都市型賃貸マンション「プライムメゾン」7物件を売却した他、ホテル物件「W OSAKA」(大阪府中央区)の持分を売却する等、計画に沿った物件売却が順調に進捗したことにより、増収となりました。また、当社が保有を継続する物件については、「プライムメゾン」等の入居率が堅調に推移しました。

また、日本生命保険相互会社との共同事業として開発を進めてきた高層オフィスビル「赤坂グリーンクロス」(東京都港区)が2024年5月に竣工するとともに、北海道では初進出となる「コートヤード・バイ・マリオット」ブランドのホテル「コートヤード・バイ・マリオット札幌」(札幌市中央区)が2024年7月に開業しました。

<国際ビジネス>

(国際事業)

当事業の当中間連結会計期間における売上高は4,846億7千万円(前年同期比140.3%増)、営業利益は302億3千9百万円(前年同期比142.4%増)となりました。

米国では、戸建住宅事業においては、住宅ローン金利の高止まりの影響で中古住宅が在庫不足となり、新築住宅へのニーズが高まったことから既存ビルダーの受注・引渡しが好調に推移したことに加え、米国での更なる事業展開エリアの拡大に向け2024年4月にMDC社を完全子会社化したことにより増収となりました。また、コミュニティ開発事業も好調に推移し、賃貸住宅開発事業においては、積水ハウス・リート投資法人が組成した米国SPCに対する「The Ivey on Boren」(シアトル)の引渡し完了したことで、米国事業全体としても増収となりました。

オーストラリアでは、戸建住宅の受注は改善傾向で推移したものの、分譲マンション引渡しの端境期に重なった影響などもあり、減収となりました。

<その他>

当事業の当中間連結会計期間における売上高は69億1千1百万円(前年同期比29.0%増)、営業利益は13億1千万円(前年同期比71.4%増)となりました。

<ESG経営>

ESG経営のリーディングカンパニーを目指す当社グループは、第6次中期経営計画において「住まいを通じて環境課題の解決に貢献」「従業員の自律を成長ドライバーにする」「イノベーション&コミュニケーション」を基本方針とし、積水ハウスグループらしい「全従業員参画型ESG経営」を推進しています。

環境面では、ZEH基準をクリアする戸建住宅「グリーンファースト ゼロ」を発売してからの累積販売棟数が8万棟を超え、2023年度の新築戸建住宅ZEH比率が95%と過去最高を更新するとともに、賃貸住宅「シャームゾン」や分譲マンション「グランドメゾン」等の集合住宅におけるZEH化、非住宅建築物におけるZEB化を推進してきました。生物多様性保全に向けた取り組みとしては、住宅事業を通じ地域の気候風土・鳥や蝶等と相性の良い在来樹種を中心とした植栽を提案する「5本の樹」計画の推進に加え、国際目標であるネイチャー・ポジティブの実現に向け共創を推進してきた株式会社シンク・ネイチャーとともに、お客様の庭における生物多様性保全効果を最大化できる樹木等を提案する「生物多様性可視化提案ツール(仮称)」を2024年6月に共同開発しました。

社会性向上に関しては、重要な経営戦略の一つである「女性活躍の推進」において、2014年から開始している女性管理職候補者研修「積水ハウス ウィメンズ カレッジ」やキャリア形成の手本となるロールモデルづくりを継続・推進しました。また、当社及び積水ハウス イノベーション&コミュニケーション株式会社は、「住まいと暮らし」にまつわる社会課題解決へ向けた事業創造と人財育成をさらに加速させるべく、2024年9月、「赤坂グリーンクロス」内に、オープンイノベーション施設「InnoCom Square(イノコム・スクエア)」を開設しました。

ガバナンス面では、トップマネジメント・事業マネジメント両輪でガバナンス強化を推進する第6次中期経営計画の方針のもと、従来より実施していた取締役会の実効性評価に加え、2023年度より第三者機関による監査役会及び監査役監査活動の実効性評価を実施し、監査役会にて今後重点的に検討すべき課題を確認するなど監査品質の向上や監査役会運営の向上に取り組みしました。また、MDC社の完全子会社化に伴うPMIを米国の既存グループビルダーを含めて推進する体制を構築するなど、グループガバナンスのグローバル展開を進めています。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における資産合計は、MDC社を買収したことに伴う販売用不動産の増加等により1兆3,675億7百万円増加し、4兆7,203億6百万円となりました。負債は、短期借入金の増加や社債の発行等により1兆1,639億6千4百万円増加し、2兆7,227億1千万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定の増加や親会社株主に帰属する中間純利益を計上したこと等により2,035億4千3百万円増加し、1兆9,975億9千5百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年1月期の連結業績予想につきましては、2024年6月6日に発表した計画から下記の通り修正しました。当中間連結会計期間の好調な業績進捗に加え、国内外の住宅事業の足元の状況に鑑み、修正するものです。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,875,000	百万円 300,000	百万円 273,000	百万円 209,000	円 銭 322.56
今回修正予想(B)	4,000,000	320,000	288,000	209,000	322.56
増減額(B-A)	125,000	20,000	15,000	0	—
増減率(%)	3.2	6.7	5.5	0.0	—
(参考)前期実績(2024年1月期)	3,107,242	270,956	268,248	202,325	309.29

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	293,152	431,839
受取手形・完成工事未収入金等	176,466	177,456
有価証券	—	28,632
未成工事支出金	17,351	17,816
分譲建物	774,297	1,097,329
分譲土地	856,404	1,277,876
未成分譲土地	233,197	327,404
その他の棚卸資産	12,474	13,113
その他	134,627	228,313
貸倒引当金	△1,026	△1,044
流動資産合計	2,496,947	3,598,736
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	155,480	179,943
機械装置及び運搬具(純額)	9,664	10,149
土地	252,548	257,948
建設仮勘定	52,173	40,584
その他(純額)	26,386	43,761
有形固定資産合計	496,253	532,387
無形固定資産		
のれん	17,808	158,820
その他	22,579	86,776
無形固定資産合計	40,388	245,597
投資その他の資産		
投資有価証券	198,437	224,574
長期貸付金	3,971	4,650
退職給付に係る資産	35,440	36,823
繰延税金資産	20,242	16,076
その他	62,989	63,398
貸倒引当金	△1,872	△1,938
投資その他の資産合計	319,208	343,584
固定資産合計	855,851	1,121,569
資産合計	3,352,798	4,720,306

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	134,026	151,352
電子記録債務	103,266	71,525
短期借入金	440,075	916,113
1年内償還予定の社債	16	16
1年内返済予定の長期借入金	21,611	159,584
未払法人税等	39,777	41,378
未成工事受入金	210,030	242,831
賞与引当金	36,699	28,493
役員賞与引当金	2,553	2,858
完成工事補償引当金	6,152	13,289
その他	143,827	237,418
流動負債合計	1,138,038	1,864,862
固定負債		
社債	50,008	469,064
長期借入金	239,089	241,543
長期預り敷金保証金	58,659	53,548
繰延税金負債	6,111	22,509
役員退職慰労引当金	707	779
退職給付に係る負債	30,716	30,948
その他	35,415	39,452
固定負債合計	420,707	857,847
負債合計	1,558,745	2,722,710
純資産の部		
株主資本		
資本金	202,854	203,094
資本剰余金	260,126	260,297
利益剰余金	1,132,275	1,213,770
自己株式	△40,979	△40,975
株主資本合計	1,554,276	1,636,186
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	44,597	33,906
為替換算調整勘定	132,895	261,630
退職給付に係る調整累計額	22,816	19,695
その他の包括利益累計額合計	200,309	315,233
新株予約権	100	95
非支配株主持分	39,366	46,080
純資産合計	1,794,052	1,997,595
負債純資産合計	3,352,798	4,720,306

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
売上高	1,462,443	1,859,127
売上原価	1,169,077	1,497,551
売上総利益	293,366	361,576
販売費及び一般管理費	168,447	204,435
営業利益	124,918	157,141
営業外収益		
受取利息	1,352	3,203
受取配当金	1,175	1,244
為替差益	2,305	3,064
持分法による投資利益	1,979	446
その他	1,563	1,440
営業外収益合計	8,376	9,399
営業外費用		
支払利息	5,145	13,835
その他	2,909	5,528
営業外費用合計	8,055	19,364
経常利益	125,239	147,176
特別利益		
投資有価証券売却益	2,541	18,941
関係会社株式売却益	8,230	—
特別利益合計	10,772	18,941
特別損失		
買収関連費用	—	3,379
固定資産除売却損	646	586
関係会社株式売却損	—	386
減損損失	245	12
投資有価証券評価損	8	—
特別損失合計	900	4,365
税金等調整前中間純利益	135,112	161,752
法人税、住民税及び事業税	36,964	39,841
法人税等調整額	3,523	△2,937
法人税等合計	40,488	36,904
中間純利益	94,623	124,847
非支配株主に帰属する中間純利益	2,129	1,863
親会社株主に帰属する中間純利益	92,494	122,983

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
中間純利益	94,623	124,847
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,629	△10,578
為替換算調整勘定	52,825	123,193
退職給付に係る調整額	△472	△3,128
持分法適用会社に対する持分相当額	2,272	5,527
その他の包括利益合計	64,254	115,013
中間包括利益	158,878	239,861
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	156,526	237,908
非支配株主に係る中間包括利益	2,352	1,953

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。